山都町の未来図 ～15年ぶりの新作！清和文楽～

清和文楽の新作「肥後アマビエ戀歌異聞」が、3月20日に熊本県立劇場で初演を迎えました。新作は、山都町合併記念で制作された「阿蘇の鼎灯」以来、15年ぶりの作品となります。脚本や作曲、人形の振り付けや衣装のデザイン・製作など、無事初演を迎えるまでの様子や、関係者の想いをお伝えします。

清和文楽は、県内に残る唯一の人形浄瑠璃芝居で、昭和54年に県の重要無形文化財に指定されました。江戸時代から農村文化の一部として継承されてきた文楽を、より多くの方に観てもらい、後世に残していくため、九州で唯一の人形浄瑠璃専用の劇場である清和文楽館が建設され、定期公演や県外・国外への公演活動など、清和文楽人形芝居保存会8名と清和文楽館スタッフで活発に活動されています。

毎週水曜日には小学生から一般の方を対象に清和文楽講座を開講されています。興味のあられる方はぜひご参加ください。

肥後アマビエ戀歌異聞

肥後の国の海底深くに棲む竜王の娘「あま姫」は、時化に巻きまれた肥後藩士凪尾剛之進を助ける。

一目で恋に落ちた二人だったが、長年あま姫に想いを寄せていた海の妖、海法師が二人の仲を裂こうと画策。

「あま姫の本性を知ればお前は食われる」

海法師の言葉に惑わされる剛之進。

愛する人の全てを知りたいと願うのは、幸か不幸か？

脚本　松本　眞奈美

問合せ先　清和文楽館　☎82-3001

なぜアマビエを題材に？

アマビエは、肥後の国に伝わる妖怪で、疫病封じにご利益があるといわれ、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るう中、コロナ退散・無病息災の願いを込め、日本中で親しまれるようになった妖怪です。

「昨年、コロナ禍で文化芸術活動に様々な制限がかかる中、当文楽館においても休館を余儀なくされました。コロナの終息を願い「寿式三番叟」や「パプリカ」の動画や雪おんなの人形を熊本ゆかりの妖怪「アマビエ」へ変化させSNSで配信しました。そうした中、熊本県立劇場から「アマビエの人形を動かしてみませんか？」とお声がけをいただき、県立劇場プロデュース事業として5月から制作がはじまり約1年の歳月をかけ取り組んで参りました。多くの方の協力を得て3月20日、熊本県立劇場で無事初演を迎えることが出来ました。」と文楽館館長の飯星直子さんは話してくれました。

より親しみやすい清和文楽に…

清和文楽館に新作の制作を提案した熊本県立劇場参与の本田恵介さんは、きっかけについて、

「SNSで発信された雪おんなの人形をアマビエの姿に変身させているのを見るなり、これは清和文楽の新作にうってつけではないかとひらめきました。アマビエはテーマとしてタイムリーなうえ、伝説なのでストーリーを自由に展開できます。さらに、県立劇場がこれまで関わってきた県内の劇作家や学生まで巻き込めば、文楽の敷居を低くできるのではないか、そうした思いが一気に広がりました。アマビエ上演により、清和文楽が新たなステージへ進化したような気がします。」と嬉しそうに話されました。

学生による衣装製作

今回の衣装のデザイン・製作は県劇の包括連携事業として熊本デザイン専門学校の生徒の皆さんが行われました。ファッションデザイン科担当の松本雪先生は

「衣装という形で参加させていただけたこと、とても貴重な経験に感謝するとともに、大変誇りに思います。アマビエの鱗をイメージした金ビーズ装飾と、海法師の袈裟に描かれたタコのイラストがポイントです。」と話されました。

生徒たちと、稽古をつけるため来熊した淡路人形座の人形遣いの吉田史興さん（一番右）

衣装製作を行う熊本デザイン専門学校の生徒たち

三味線と太夫の稽古風景

小道具も制作されました

初演を終えて

演者の皆さんに、今回の新作の見どころや楽しみ方をお聞きしました！

「いろいろな方に協力いただき無事、初演を迎えることが出来ました。ありがとうございました。これからも精進してまいります。」

清和文楽人形芝居保存会会長
片山勇次（人形遣い）

「アマビエとあま姫、真珠と珊瑚、海法師や剛之進のそれぞれの語りにご注目ください。

1時間もの大作で聴きごたえのある作品です。」竹本友清（太夫）

「登場人物の気持ちや、その時の情景を三味線で表現しています。これからも稽古に励んで参ります。」

渡邊奈津子（三味線）

清和文楽館より

今後は、大切な宝物として「肥後アマビエ戀歌異聞（こいうたいぶん）」を新たな文化の灯として成長させていきます。当館での公演の他、出張公演にも対応していきたいと思います。

人形浄瑠璃を初めて見られる方でも、物語の内容や、浄瑠璃も口語体で解りやすい作品となっております。町民の皆様にもぜひ、クーポン券を利用して当館へ足をお運びいただきご覧いただきたいと思います。

新作制作のきっかけとなった雪おんなのアマビエ姿

制作スタッフの皆さんのご紹介

脚本　松本眞奈美氏

新しいアマビエ伝説を書き下ろしていただき、何度も清和文楽館まで稽古に来てくださいました。

作曲　鶴澤友勇氏（淡路人形座）

脚本から浄瑠璃に、太棹三味線の魅力たっぷりの作曲と、三味線のご指導いただきました。

浄瑠璃　竹本友庄氏（淡路人形座）

太夫の語りをしっかり稽古つけていただきました。

人形振付　吉田史興氏（淡路人形座）

何度も淡路から文楽館まで、人形振付、人形指導に来ていただきました。

作調（鳴り物）　中村花誠氏

大太鼓・締め太鼓・大鼓・小鼓など鳴り物を加えて新しい清和文楽の世界観を表現していただきました。

作調（笛）　藤舎仁鳳氏

鳴り物と一緒に昨年よりご指導いただいてます。今回は作調と演奏にも加わっていただきました。

衣装デザイン・制作　熊本ビジネス専門学校

アマビエ、海法師のデザイン・制作、真珠、珊瑚の衣装デザインを手掛けていただきました。ひと針ひと針、学生さんのセンスが光ります。

吉本美術

屋台や海法師の小道具など美しい大道具・小道具を作成していただきました。

指導・監修　淡路人形座

今回の制作にあたり、数々のサポート・監修をしていただきました。